

- ・紅斑期→扁平浸潤期→腫瘍期
 - ・長い時間をかけて進行
 - ・表皮内のポートリエ (Pautrier) 微小腫瘍
 - ・治療はP U V A療法→P U V A療法+電子線療法、外科的手術→化学療法
- 表皮向性：腫瘍性T細胞が真皮内から表皮内へ浸潤すること
- 紅斑期：四肢や体幹に皮膚炎や乾癬に類似した皮疹が見られる (数年～10年)
- 扁平浸潤期：浸潤性の扁平に隆起した皮疹を呈する (数年)
- 腫瘍期：紅～暗赤褐色の結節の腫瘍を形成し、リンパ節転移や多臓器特に肺への浸潤をきたす (2～3年で死亡)
- P U V A療法：光線療法のひとつ。UVA (長波紫外線；320nm～400nm) を用いる治療で、紫外線のもつ光毒性反応を応用している。

問題15・・・

TEN について説明せよ。(200字以内)

解答：

TEN は主に薬剤摂取により、発熱を伴って全身に紅斑や水泡を形成し、著明な表皮壊死や剥離を生じる重症薬疹の一種である。本症は臨床経過からSJS進展型、びまん性紅斑型、特殊型に分類される。薬剤により、細胞傷害性T細胞の機能が異常亢進し、基底層が傷害を受けることにより発症する。治療としては、直ちに薬剤を中止し、病初期であれば短期間のステロイド全身投与ならびに熱傷に準じた治療を行う。(187字)

問題16・・・

悪性黒色腫 について説明せよ。(200字以内)

解答：

メラノサイトの悪性腫瘍である。結節型、表在拡大型、末端黒子型、悪性黒子型の4病型に分類される。結節型は、初めから垂直方向に浸潤増殖して結節を形成する。予後が最も悪い。表在拡大型は水平方向に拡大してから垂直方向に浸潤増殖する。末端黒子型は爪郭部を乗り越えて黒色斑が広がる Hutchinson 徴候が特徴である。悪性黒子型は悪性黒子から移行し、他に比べ予後が良好。いずれも黒色で辺縁不明瞭、色調に濃淡のある病変。リンパ行性、血行性に転移しやすく、肺や骨に浸潤、悪性度が高い。治療は早期発見、早期外科的切除が大原則で、ほかの治療法はあまり効果がない。(273字)